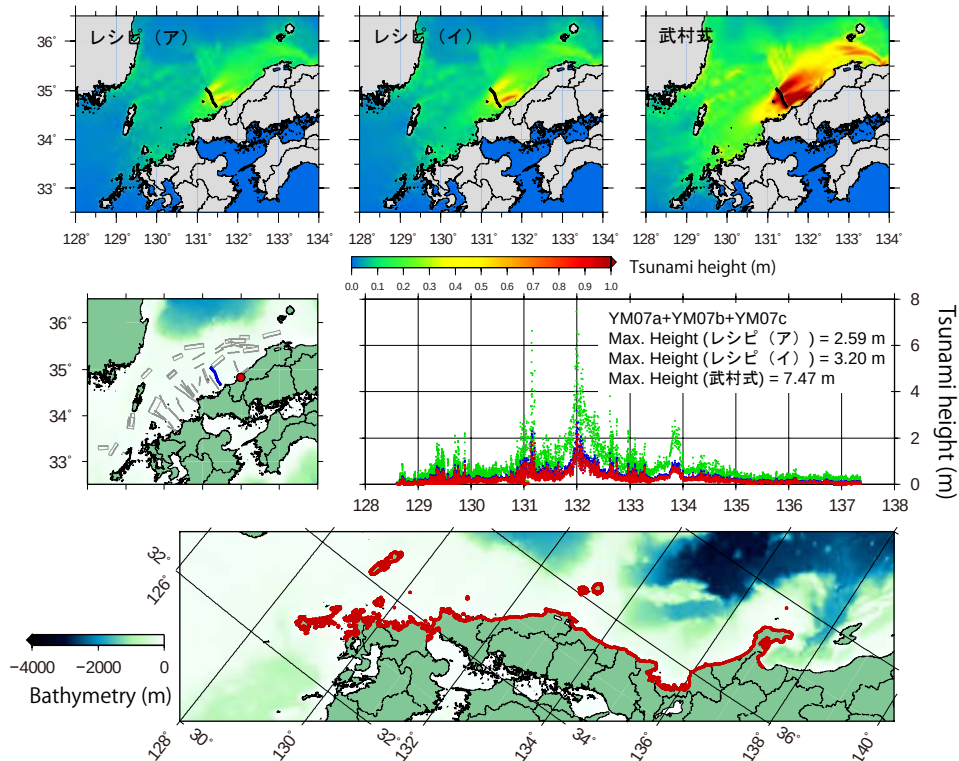


日本海西南部の海底活断層による沿岸部の津波高

佐竹健治（東京大学地震研究所）

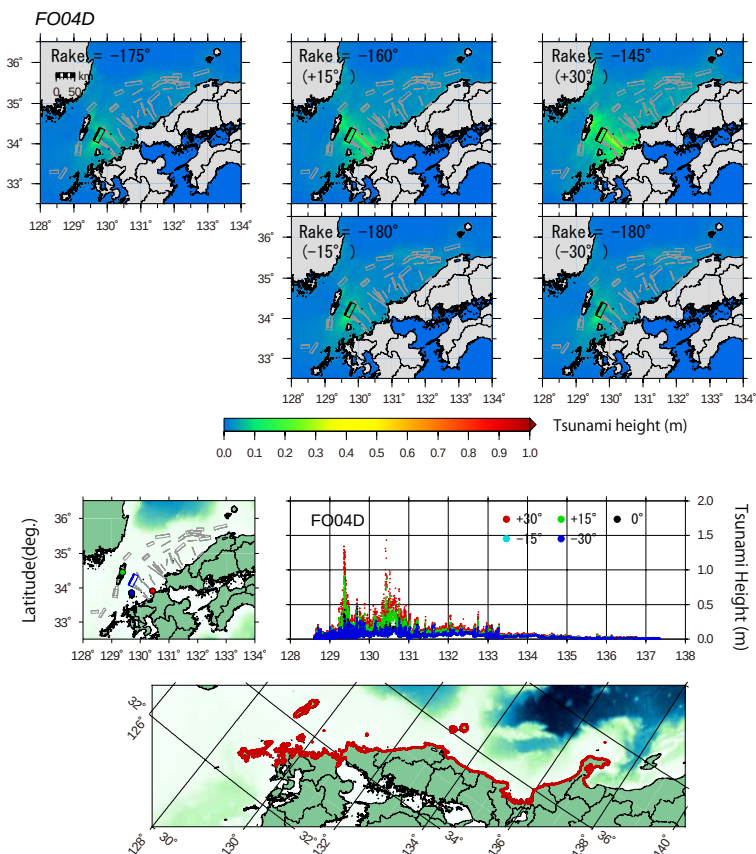
日本海地震・津波調査プロジェクトにより得られた山陰～九州沖の海底活断層の断層パラメーターを用いて、シナリオ型津波シミュレーションを実施した。断層長が 20 km 以上の断層・セグメントが個別に活動すると想定した 31 モデルに加え、連動する可能性がある断層・セグメントの組合せを考慮した 6 モデルを含めて合計 37 モデルの津波伝播解析を実施し、沿岸域における津波高を計算した。すべり量については、3 通りのスケーリング則を用いた。

スケーリング則による津波高の違いの検討(断層モデル:YM07a+YM07b+YM07c)



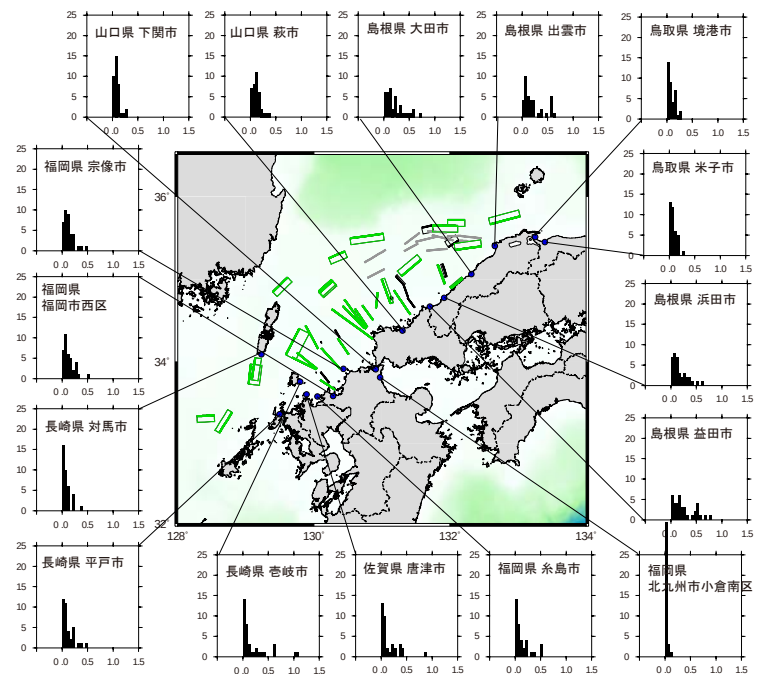
津波高のすべり角依存性の検討

また、すべり角を基準すべり角 ± 15 度、 ± 30 度にした場合について津波シミュレーションを実施し、津波高の断層のすべり角に対する依存性について検討（断層モデル：F004D に対する結果）



津波高の頻度分布の整理

富山県～長崎県沿岸域の 9 秒メッシュ出力点において、37 断層モデルによる津波高を整理し、津波高予測に資するデータを作成



※ 津波高の確率論的予測には、それぞれの断層の発生確率が必要

謝辞：本研究は、文部科学省受託研究「日本海地震・津波調査プロジェクト」の一環として実施されました。記して感謝いたします。